

1. 調査目的等

小学校1年生から6年生の児童の学力を把握・分析し、学校における教育指導の成果と課題の検証やその改善に役立てる。

2. 学校ごとの指標

- ・学校の標準偏差値を、嘉麻市の平均目標51.1以上にする。
- ・国語・算数市販テストにおいて、低学年90点、中学年85点、高学年80点以上にする。
- ・学年家庭学習目標時間の達成者数を、各学年の80%以上にする。

3. 指標にむけての取組

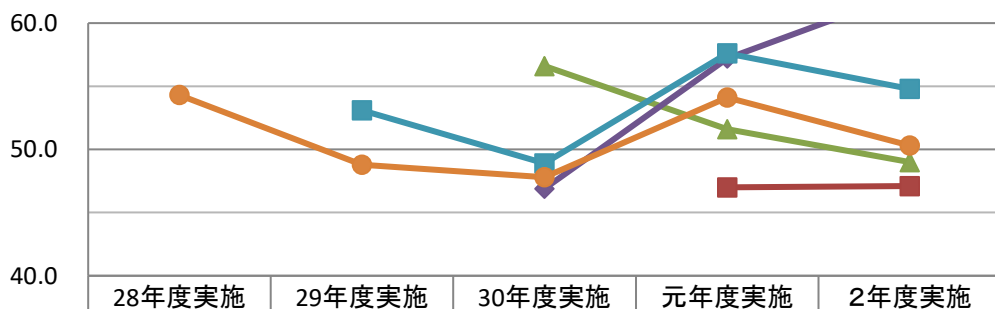
- ・主体的な学習を目指す授業改善を行う。(課題追求・学びの振り返り)
- ・単元テスト後の補充学習では、既習内容を確実に学ばせるための複数体制での指導を行う。
- ・統一した家庭学習の内容(宿題+自学+明日の準備)を決め、家庭学習の徹底を行う。

4. 調査結果

※学校平均5年間の推移 (標準偏差値50に対して)

年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度
本校(A)	55.0	53.8	50.4	53.1	55.0
嘉麻市(B)	50.7	51.5	51.4	51.1	50.9
(A) - (B)	4.3	2.3	-1.0	2.0	4.1
標準偏差値との差 (A) - (50)	5.0	3.8	0.4	3.1	5.0

各学年の推移



	28年度実施	29年度実施	30年度実施	元年度実施	2年度実施
● 2年度1年生					60.9
■ 2年度2年生				47.0	47.1
▲ 2年度3年生			56.6	51.6	49.0
◆ 2年度4年生			46.9	57.2	62.5
■ 2年度5年生		53.1	48.9	57.6	54.8
● 2年度6年生	54.3	48.8	47.8	54.1	50.3

5. 各学校における分析

- ・学年にとって、学力差が見られる。
- ・偏差値が低下した学年においては、学習の理解の程度や到達度に配慮して、基礎学力を定着させるための補充学習の充実を図る必要がある。
- ・偏差値が向上した学年においては、毎時間後の学習の定着度を確認したり、発展問題に挑戦させたりする時間を設定したことが効果的であったと考える。
- ・昨年度、学校休業に伴い、7校時授業を導入したことによる児童の負担を考え、家庭学習の内容を整理した。このことにより、6月の家庭学習調査では宿題の提出率は98%を超えるものの、家庭学習時間の達成者の割合が65%になった。2月には、家庭学習時間達成者の割合が90%にまで回復したものの、昨年度までと比べ、家庭学習の時間は短い。

6. 各学校における今後の取組

- ・全職員で、本校の学力の推移や課題について共通理解を図り、全学年での取組の徹底を図る。
- ・学力向上の軸は「授業」であることへの共有化を図るとともに、①「学習内容が分かる授業」②「学習のおもしろさが分かる授業」③「自分のよさが分かる授業」づくりを目指す。
- ・目的を明確にしたICT活用を図る。
- ・前年度より偏差値の低下がみられる3年生と6年生は、非常勤講師を活用して、複数体制での授業づくりを行う。
- ・学年差、個人差を考慮しつつ、習熟度別の授業や、個に応じた家庭学習の工夫を継続し、学力の積み上げを行う必要がある。
- ・週一回のチャレンジタイムを設定し、補充・活用問題に触れさせるため。複数体制での指導を行う。
- ・統一した家庭学習の内容(宿題+自学+明日の準備)を確認したり、家庭学習頑張り週間を設定したりすることで、家庭学習の徹底を図る。

7. 嘉麻市教育委員会としての今後の取組

- ◎今後の取組を具体化し推進できるように、特に次の3点について指導助言及び支援を行うとともに、周知徹底できるように継続的に指導する。
- ◆嘉麻市学力向上全体構想に設定した学習評価からの授業づくり(指導と評価の一体化)や思考を伴う「書く活動」を核とした授業づくりの推進する。そのために、校内研修での授業観察指導を実施したり、「書く活動ポイント9」や「GoTo授業づくりチェック20」を活用できるように指導助言や支援を行ったりする。
 - ◆嘉麻市学力向上推進員会に基づく学力向上検証委員会を開催し、単元テスト評価後の個に応じた習熟度別指導を取り入れた指導方法の工夫を推進する。そのために、習熟度別指導の単元づくりや個に応じた補充プリントの活用の仕方について指導する。
 - ◆嘉麻市学力向上全体構想に設定した「家庭学習の取組」を推進する。そのために、個に応じた学習課題の提示を進めるとともに、自学の習慣化に向けた具体的な取組を提示したり各学校の取組のよさを交流する場を設定する。